

様式1

令和6年度 山口県立小野田工業高等学校定時制 学校評価書 校長(矢原 光久)

1 スクール・ミッション、学校教育目標
生徒の多様なニーズに応え、一人ひとりの可能性をのばすキャリア教育や、地域・社会や地元企業と連携・協働した工業に関する教育活動等を通して、主体的に学び、地域・社会の要請に応え、地域産業に貢献しようとする、自立して社会を生きていくことができる人材を育成します。

2 スクール・ポリシー	
グラデュエーション・ ポリシー (育成をめざす資質・ 能力に関する方針)	○高い規範意識と正しい判断力を持ち、社会人として自発的・自律的に行動できる人物を育成します。 ○地域社会・産業に貢献しようとする心と態度を備えた人材を育成します。 ○基礎学力を含めた広い教養と専門的な知識・技術を身に付けるとともに、それらを活用する力を育成します。
カリキュラム・ポリ シー (教育課程の編成及 び実施に関する方 針)	○地域に貢献する人材を育成するために、地域や地元企業と連携した教育活動を行います。 ○自分の夢や希望をもち、自立して社会を生きていくことのできる人材を育成するために、キャリア教育を充実します。 ○学習内容の確実な定着を図るため、基礎・基本を重視した教科指導を行うとともに、学んだことを活用する力を育むため、実習・課題研究など自分自身で試行錯誤する教育活動を重視します。 ○自己肯定感向上に向け、特別活動や教育相談体制を充実します。
アドミッション・ポリ シー (入学者の受け入れ に関する方針)	○学業と仕事などの社会活動を両立しながら、卒業しようとする意欲をもって努力する生徒を募集します。 ○規則やマナーを守り、基本的な生活習慣を大切にする生徒を募集します。 ○ものづくりに興味をもち、工業に関する学習に前向きに取り組み、技能の習得や資格の取得をめざそうとする生徒を募集します。

3 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)
①学習指導・・・昨年度末の授業アンケートでは100%の生徒が「授業がよくわかる」と回答した。本年度もPDCAサイクルを回し、実態に応じた指導を行う。互見授業等を行い、授業改善に取り組むとともに、教員の指導力向上を図っていく。学習習慣の定着のため、出席率を向上させる。 ②生徒指導・・・昨年度、全生徒の出席率が86%であった。生徒一人ひとりに合わせたきめ細かい指導を行い、校則の遵守や時間厳守の意識を高める。月1回の情報交換会等で生徒情報を共有し、全教員の共通理解のもとで組織的に指導にあたる。交通安全・交通法規遵守の意識を高める。 ③進路指導・・・15年連続進路実現100%を達成、本年度も継続して進路実現100%に取り組む。1・2年生については円滑な進路決定が図れるように生徒一人ひとりに合わせたきめ細かい指導を継続的に行う。 ④特別活動・・・昨年度の行事への全体の参加率は87.6%であった。積極的な声掛けや行事の創意工夫を通して参加率の上昇を図る。従来の行事を大切にしながら行事を企画・運営して、生徒の自主性を育成していきたい。 ⑤工業科・・・昨年度は資格、検定試験の学習やICT機器の活用拡大、新教育課程への対応を行い、工業全般の知識や技術指導を充実させた。本年度もこれらを継続し、就職に向けた技術の習得と、基礎学力の補充と定着を目指したい。 ⑥業務改善・・・昨年度は業務改善と校務分掌の見直し等について取り組み、4つの分掌で日常的に改善に取り組んだ。本年度も引き続き、業務改善と校務分掌の見直しに取り組む。 ⑦地域連携・・・昨年度は感染症予防のために実施できないものもあったが、地域の伝統産業の学習や地元企業での実習は実施した。本年度も地域の学習や自習を実施したい。また、ホームページを活用して情報発信に努めていく。 ⑧ICTの活用・・・ICT機器の積極的活用を推進し、指導力向上に努める。

4 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題
1 ICT機器の効果的利用等による、わかりやすい授業の実践と公務の効率化 2 規律ある安心・安全な学校づくりと組織的な危機管理 3 キャリア教育の充実と丁寧な進路指導 4 学校行事や様々な媒体を利用した本校の魅力の積極的発信 5 探究活動の充実(地域と連携した教育活動・CSの仕組みの活用) (1)【学習指導】・基礎学力や技術の定着 ・互見授業、授業評価を活用した授業研究とICT機器の積極的活用による授業改善 ・主体的、対話的で深い学びの視点に立った授業実践 (2)【生徒指導等】・基本的生活習慣の確立と規範意識の向上 ・命の大切さや人権を尊重する心や態度の育成 ・交通法規の遵守とマナーの向上 ・部活動や特別活動の活性化 (3)【進路指導】・資格取得の促進 ・早い時期からの進路意識の醸成 ・就職サポーター等と連携した積極的な情報収集 ・生徒・保護者への確実な情報提供 ・最後まで粘り強いサポートの実践 (4)【校務運営等】・教員減に対応した持続可能な運営体制の見なおし ・ICTを活用した校務の効率化 ・迅速な情報共有と緊密な連携による組織的対応の習慣化 ・コミュニティスクール等地域、企業、異校種などとの双方向の連携強化 ・本校の特徴的な活動やものづくりの魅力の積極的に情報発信 ◎本年度のチャレンジ目標 ①進路実現100% ②全校生徒で年間90%以上の出席率

5 自己評価						6 学校関係者評価	
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
学習指導	基礎学力の向上と学習習慣の確立	考查毎の生徒の「振り返り」を教科担当が必要に応じて支援する。さらに学期に1回、授業評価を実施し、評価結果の分析に基づいて授業改善を行い、生徒の基礎学力の向上を図る。	授業評価項目の中の授業の内容が「よく分かる」、「分かる」が合わせて 4: 90%以上 3: 85%以上 2: 75%以上 1: 75%未満	4	授業アンケートの結果「授業がよくわかる」の割合が、座学では前期98%、後期96%、実技では前期99.5%、後期98%であった。「授業に工夫がされている」の割合が、座学では前期99%、後期99.8%、実技では前後期ともに100%であった。数値が下がった部分は、1学年の生徒に、授業についていけるか不安に感じている生徒がいることが原因とみられる。	診断・分析を見ただけで教員の生徒に対する取組の熱意が伝わってくる。ひとりひとりを大切にする丁寧な指導を継続してほしい。	B
		教員相互による授業参観を活用し、授業力向上に取り組む。	教員一人あたりの授業参観回数が 4: 5回以上 3: 4回以上 2: 3回以上 1: 3回未満	3	授業参観は前期19回、後期19回の累計38回であった。一人当たりの平均は4.8回であった。今後は授業参観の回数を増やすとともに、他校の先進的な取組を学ぶ機会を増やし、授業力の向上に取り組むたい。		
		学習習慣を確立させるため、高い出席率の維持に努める。	出席率が95%を超える生徒が 4: 60%以上 3: 50%以上 2: 40%以上 1: 40%未満	3	出席率が95%を超える生徒は21名中11名であった。内訳は1年生が7名、2年生が3名、4年生が1名である。学年別の出席率は、1年97%、2年90%、3年82%、4年98%であった。特定の生徒の欠席・遅刻が目立つ。個別的教育相談などなどの丁寧な対応で改善を促したい。		
生徒指導	基本的生活習慣の育成	社会人としての礼法ができるようになる。	授業時や校内での礼法がきちんとできる生徒が 4: 70%以上 3: 60%以上 2: 50%以上 1: 50%未満	3	アンケートの結果62%の生徒が挨拶がよくできていると答えている。挨拶がきちんとできる生徒とまだ身についていない生徒がいる。今後も粘り強く指導していく必要がある。	挨拶、時間厳守、交通ルールを守ること、交通マナーなど、卒業する前に身につけさせてほしい。素敵な社会人に成長するように、指導を継続してほしい。	A
		時間厳守の意識をもたせ、実践できるようにする。	授業開始時刻にきちんと待機できる生徒が 4: 70%以上 3: 60%以上 2: 50%以上 1: 50%未満	4	アンケートの結果95%の生徒が、時間を守れている。一部の生徒を除き、時間を守れるようになってきている。今後も、更に自覚した行動がとれるようになってほしい。粘り強い指導を実施していきたい。		
	いじめや問題行動等の未然防止	生徒情報交換会および生徒理解の研修を、前後期各2回程度実施し、その中で指導や支援に関する最新の知見を共有する。	4: 交換会および研修を前後期2回程度実施し、生徒情報及び最新知見の共有ができた。 3: 交換会および研修を前後期1回程度実施し、生徒情報を共有することができた。 2: 交換会や研修は定期的に実施できなかったが、生徒情報を共有することができた。 1: あまり実施できなかった。	3	定期的に開催する生徒情報交換のほか、必要に応じて生徒の情報交換会を前期・後期ともに複数回実施した。教員間の情報共有を密にすることができた。		
		生徒一人ひとりの変化に気を配り、いじめや問題行動の早期発見、未然防止に努めるために、アンケートや個人面談を積極的に行う。	アンケートや個人面談を 4: 年間6回以上実施した。 3: 年間4回以上実施した。 2: 年間2回以上実施した。 1: あまり実施できなかった。	3	いじめ等に関するアンケートを年2回、個人面談を担当・教育相談担当合わせて年3回実施した。いじめを受けた、見たという回答はなかった。個人面談等で生徒の変化に気付くことができ、いじめや問題行動等に早期に介入できている。		
	交通法規の遵守とマナーの向上	定期的に実施する安全教室と合わせて、定期的に登校時に注意喚起をする。	交通安全指導を 4: 1か月に2回程度実施した。 3: 1か月に1回程度実施した。 2: 2か月に1回程度実施した。 1: あまり実施できなかった。	3	登校時にそれぞれが利用している交通手段(原付、自転車)についての安全指導を行った。また、スタントマンの実演による交通安全教室を実施した。今年度は登下校中の事故は発生していない。		

評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
進路指導	生徒一人ひとりの進路について関心を高め、勤労観・職業観の育成を図り、ミスマッチのない進路選択の実現	LHRや各種行事での進路学習、個人面談等を通して、生徒一人ひとりの進路意識を高揚させ、早期に具体的な進路目標を持たせる。	全学年の生徒において進路希望「未定」が 4： 10%未満 3： 20%未満 2： 40%未満 1： 40%以上	4	数名進学希望の生徒がいるが、ほとんどが就職希望である。少数の生徒を除き進路の方向性は決まっている。今後は、より具体的な進路を考えさせるとともにビジネスマナー等の学習を計画的に実施したい。	素晴らしい結果である。今後もきめ細やかな指導を継続してほしい。	A
		卒業学年生徒一人ひとりの希望に添った進路が実現できるよう支援する。	卒業学年生徒において 4： 全員の進路が12月末までに決定 3： 全員の進路が 2月末までに決定 2： 全員の進路が 3月末までに決定 1： 3月末までに進路先を決定できない者がいた	4	4年生については、9月末に就職先が決定した。3年生三修制の生徒は自己就職で決定した。本年度の卒業生はこの2名である。来年度も個人面談や進路ガイダンス等できめ細やかな指導により、マッチングの促進に努めていきたい。		
特別活動	学校行事や生徒会活動を通した活力ある学校づくり	学校行事を通して、生徒の自主性を育成する。	4： 95%以上の生徒が参加し、生徒の自主的な取組が活発に行われた。 3： 90%以上の生徒が参加し、生徒の自主的な取組が行われた。 2： 85%以上の生徒が参加し、生徒の自主的な取組が行われた。 1： 参加した生徒は85%に満たず、取組は停滞していた。	3	全体の参加率は90.4%であった。学年別の参加率は1年100%、2年85.7%、3年76.2%、4年100%であった。3年の出席率が低いが全体としては昨年度より出席率が高くなった。行事に参加した生徒について、皆積極的かつ協力的に活動に取り組んでいた。	学校行事への参加は学校生活の一部であると同時に高校生活の大切な思い出となる。大切にしてほしい。	A
工業	産業人として必要な技能・技術の習得	資格試験、検定試験の実施や外部人材活用により、生徒に基礎的な技能・技術を身に付けさせる。	資格・検定試験や外部人材の活用を 4： 年間6回以上実施した。 3： 年間4回以上実施した。 2： 年間3回以上実施した。 1： 年間3回未満の実施であった。	3	山口マイスター活用事業(1回)、危険物取扱者試験(丙種：2年生6名受験)、全国工業高等学校長協会検定(3回)を実施した。生徒の実態が変化しており、また、工業教員の大幅入替えや定数に満たない状況で、受験回数は減った。しかし国家資格である丙種危険物に、5年ぶりに2名合格者を出すことができた。	工業科教員の不足は深刻な問題である。日々の指導に感謝する。	B
	技術の習得と技能の継承による指導力向上	工業専門科目やICTに関する研修会へ積極的に参加する。	教員一人当たり、研修に 4： 年間4回以上参加した。 3： 年間3回参加した。 2： 年間2回参加した。 1： 年間2回未満の参加であった。。	1	工業科教員が定数に満たず、授業数の増や出張が困難になったため、ほとんどの公的な研修会に参加することができなかった。工業科の個人間では、新たな技術やテクノロジーについて研修を積み、互見授業などを通じて指導力の向上を目指している。来年度は充実した研修が行えるよう余裕ある教員配置を願っている。		
業務改善	業務改善と勤務体制の改善による業務の効率化	各分掌において定期的に会議を実施し、業務改善及び業務の効率化を図る。	業務改善と業務の効率化を 4： 4つすべての分掌において実施できた。 3： 3つの分掌において実施できた。 2： 2つの分掌において実施できた。 1： あまり実施できなかった。	4	4つの分掌すべてにおいて、行事や業務の見直しなどの業務改善に取り組んでいる。また、分掌をこえた業務の再編にも取り組んでいる。業務改善を進めていると答えた教員は89%であった。今後は、ICT等の活用、フルクラウド化にともなうデータ・文書等の整理に向けて研修等を重ねる必要がある。	業務の見直しや教員同士の協力体制を密にすることで、業務の改善を図ってほしい。多様な生徒に熱意を持って指導を続けてほしい。そのための業務改善であると考えてほしい。	B
	迅速な情報共有と緊密な連携による組織的対応の習慣化	毎日の連絡会を利用し、分掌間や分掌内の迅速な情報共有と緊密な連携を図る。	迅速な情報共有と緊密な連携が 4： 週に2回以上図れた。 3： 週に1回図れた。 2： 月に2回図れた。 1： あまり図ることができなかった。	3	連絡会の時間を活用して、生徒の情報交換を密に行った。また、生徒情報交換会や進路指導部会等を実施し、成績、出席状況や進路情報や指導方針を検討した。一連の会議を活用したことで、全教員間の情報共有や緊密な連携が図れた。		
		職場活性化のために定期的なジョブ・ローテーションを意識した校内人事を進める。	職場の活性化をするための人事配置を 4： 十分進めることができた 3： いくらかすすめることができた 2： あまりすすめることができなかった 1： 全くすすめられなかった	2	各分掌の主任、副主任の連携・協力により、分掌業務の整理と再編を進めている。全教員のジョブローテーションは実践できていないが、適材適所の人事配置がなされている。		
	時間外業務時間の削減	定時退勤を呼びかけ意識改革を図る。また、必要に応じて日々の適切な業務の配分を行い、勤務時間内に全員が退勤できるように配慮する。	時間外業務の一月当たりの平均時間が 4： 15時間以下 3： 20時間以下 2： 25時間以下 1： 25時間超	4	4月から12月までの一か月当たりの時間外業務時間の平均値は11.2時間であった。業務を時間内に終わらせるという定時退勤の意識が高まったといえる。		
地域連携	地域に対する教育活動の周知	各種行事を広報・公開し、地元紙・広報誌等の連携及びホームページにより積極的に地域へ発信する。	各種掲載回数及びホームページの更新合計が 4： 10回以上 3： 8回以上 2： 6回以上 1： 6回未満	4	新聞・広報誌等の掲載回数3回、ホームページ更新回数23回であった。今年度はホームページの更新に力を入れ、掲載する情報も増やしている。情報発信の拠点としてホームページの充実を図っている。来年度はホームページのさらなる充実とホームページを広く知ってもらう努力をしていきたい。	近隣の中学校の生徒にとって小野田工業高校は全日制・定時制ともに興味のある高校である。情報発信と交流に努力してほしい。	A
	近隣中学校と本校定時制との連携強化	近隣中学校の授業公開への参観や学校説明のための中学校訪問、本校の授業開放の案内を行い、相互理解を深める。	中学校への訪問と本校授業公開の合計日数が 4： 15日以上 3： 10日以上 2： 8日以上 1： 8日未満	4	授業公開は5日間実施し、近隣中学校や高校から生徒、保護者、教員が参観した。学校説明会にも数十名の参加があった。また、授業公開の期間以外においても、希望があれば授業見学や学校紹介を随時行った。授業公開と中学校訪問とを合わせ15日となる。訪問できない中学校には学校案内パンフレットを送付した。		
	学校と家庭、地域社会との連携の強化	デュアル研修、地域の伝統産業の学習、工場見学、老人ホームでの活動等、地域と連携した教育活動に取り組む。	目的を理解し、「意欲的に取り組めた」と答えた生徒が 4： 85%以上 3： 75%以上 2： 65%以上 1： 65%未満	4	地元の事業所、市役所(及びFMスマイルウェーブ)、商工会議所で6月と10月に職場実習を行い、工場見学は2回実施した。さらにガラス未来館ではガラス工芸を二日にわたり学んだ。地域の清掃活動や地域の文化財を知るためのウォークラリーを実施した。生徒アンケートの結果から86%の生徒が意欲的に教育活動に取り組めたと答えた。		
ICTの活用	ICT機器の積極的活用による、指導能力の向上	全教員がICT機器(一人1台パソコン、電子黒板、アプリケーション等)を積極的に活用して授業力の向上と効率化に取り組む。	ICT機器やアプリケーションを活用した授業が「できる」と答えた教員が 4： 90%以上 3： 80%以上 2： 60%以上 1： 60%未満	3	生徒のタブレット利用が確実に増加しており、ほとんどの教職員がICT機器を活用した教科指導を行っている。クラウド化への対応に若干手間取ったが、移行後は特に大きな問題は出ていない。次年度は年次進行で取り組んでいる校務支援システムの入力が全学年に課されるため、成績処理などが問題なく行える環境づくりをしたい。	時代の流れに取り残されることのないように、積極的な活用を期待する。研修を通して円滑な導入に努力してほしい。	A

7 学校評価総括(取組の成果と課題)
《成果》生徒指導、進路指導、地域連携にについては十分な成果があったといえる。チャレンジ目標である「進路実現100%」、「全校生徒で90%以上の出席率」はともに達成できた。 《課題》【学習指導】生徒や保護者への欠課状況等の情報提供を円滑に行う必要がある。ICTの活用は先行事例等を参考に効果的な活用を進める必要がある。研修機会を増やしスキルアップを図ることが大切である。 【生徒指導等】問題行動は少なかったが、服装や頭髪などのルールの徹底が十分にはできなかった。 【進路指導】進路決定がまだの生徒もいる。進路の方針は決まっているが、具体的な将来の希望が漠然としている生徒がいる。 【校務運営等】業務の見直しや業務分担の再編を進める必要がある。フルクラウド化による業務のシステム変更を促進する必要がある。ICTの活用が望まれる。

8 次年度への改善策
【学習指導】生徒への声掛け、家庭と連携を密にしてい。ICTの活用や各教科の専門性向上のために、研修機会を増やしていきたい。 【生徒指導等】挨拶、時間厳守、交通ルールやマナーの徹底など、社会人として必要な素養の定着を図りたい。個別指導や全体指導で細やかな指導に取り組んでいきたい。 【進路指導】様々な進路行事の中で、早期に進路目標が決まるように支援していく。対話を重視し、個に応じたきめ細かい進路指導を実践したい。 【校務運営等】持続可能な業務体制構築のため、業務分担の見直しや円滑な引継ぎ体制を作りたい。フルクラウド化に対応した業務システムへの移行を促進したい。地域連携をさらに推進していきたい。